

## 葛西宏信（2011年度日本英語学会賞（論文）受賞）

このたび、拙論文“Parasitic Gaps under Multiple Dominance”が、2011年度日本英語学会賞(論文)をいただくこととなり、大変嬉しく思っております。この論文を書いている時には、このような名誉ある賞をいただけるとは夢にも思っておりませんでした。選考委員の先生方、どうもありがとうございました。

多重支配(multiple dominance)と呼ばれる統語構造上の関係は、これまであまり一般的には認められておりませんでした。2000年代に入って、Barbara Citkoなどの研究を始めとして、多重支配を支持する様々な経験的証拠が提案されてきました。そのような流れの中で、今回の論文では、寄生空所構文も多重支配を支持する経験的証拠の一つとなるのではないかということを主張しました。今回の論文の基本的なアイディアは、2007年に提出した私の博士論文にさかのぼりますが、博士論文を執筆していた時点では、課題として残っていた問題も少なくありませんでした。その後、口頭発表する際やEnglish Linguisticsへ投稿する際に、それらの問題点を解決すべく試行錯誤を繰り返し、最終的には、まとまった論文として出版することができました。貴重なコメントをいただいたEnglish Linguisticsの査読者の方々や、当時のEnglish Linguisticsの編集委員会の皆様、及び担当書記の方にも、この場を借りて御礼を申し上げたいと思います。

最後に、私をこれまで指導していただいた先生方に、心より御礼の言葉を述べさせていただきます。また、共に言語学を志す私の友人たちにも、感謝の意を表したいと思います。普段それほど意識することはありませんが、今思うと、彼らから受ける刺激というか、(いい意味での)プレッシャーが、私の研究活動の支えの一つとなっているような気がします。

正直なところ、これまで思うような研究がなかなかできてはおりませんが、今回の受賞を励みに、これからもコツコツと研究を続けていきたいと思っています。